劍と冥想

劍道流祖の冥想によつて感得せるもの多きは、劍祖飯篠長威軒の鹿島香取に參籠し愛洲惟孝の鵜殿權現の窟に冥想を凝らせるを初め、齋藤判官傳鬼は鶴ヶ岡の八幡に參籠し、其の靈夢によりて天流を、石田伊豆守に上野の御太刀山不動尊に祈り、深山に入り、木石を擊ちて技を學び、靜かに山中に泊して無明流を、東下野守元治は、鹿島香取の神宮に祈りて夢に神傳を得て神明無想東流を開き、中條出羽守は常陸の芦男山の日神の夢想によりて小田流を、川崎鑰之助は上野の妙義の白雲山神に祈りて一派を開けるものより妙を承けて東軍流を、瀨戸口備前守は薩摩の伊王瀧に自源坊なるものに遇ひて、自源流を、林崎甚助は奥州林崎明神に祈りて拔刀中興流を、片山伯耆守は愛宕の社に詣で、其の夜貫の字を夢みて豁然として大悟し、其他城州鞍馬に技を得たりといふ吉岡鬼一の亞流たる吉岡流鞍馬流の如き、多くは其の秘機を參籠の中に得たるもの技を練ると共に心を練るに由らざるなし

存想

内觀冥想の工夫は、我が心身をして清澄ならしめ、こゝに平生思念する所に得入の機を得るもの、平常心これと離れざるが故に豁然として大悟し、悟り了つて妙技手に從ふ、司馬承禎の『存想の說』にいふ。

存は我の神に存するをいふ。想とは我の身を想ふをいふ。目を閉ぢて即ち自己の目を見、心を收めて即ち自己の心を見よ、心と目と皆な我が神を傷めんとすれば、即ち存想の漸なるものなり。凡そ人の目は終日他人を視る、故に心已に外を逐ふて走る。終日他事に接す、

故に目も亦外を逐ふて視る、營々たる浮光、未だ曾て内を照らさず。いかんぞ病み且つ天せざらんや。之れを以て根に歸するを靜といひ、靜を復命といふ、成性存々は衆妙の門、これ存想の漸にして學道の功半ばす。

と、もと劍に就て語りたるにあらずと雖も、道に多岐なく、劍道諸派の祖の内觀冥想によりて技一段を進むるもの此の外を逐ふの眼をして内に向はしめたるのみ。されば、白隱禪師も

人の心の眼は、竪につき、横につき、筋違ひにつくが故に、さま〳〵の迷ひを見出すなり。唯だ目なしとならば、人我の思案なく、本心自性の光り明かにして、見ずして一切の物を見、學ばずして萬事に通ずべし。此の所を一休和尚も、目なしどす〳〵聲についてましませと申されけん。脚下に眼をつけて目なしになるべし。

と云はれき。心眼を開くは存想にあり。

氣合の歌

世に氣合術の秘歌なるものを傳ふ。彼の一休が人の佛法を問へるに答へて、

佛法は鍋のさかゆき石の髯
繪にかく竹のともづれの聲

といへるに似て、模索し難き所に妙旨を傳へんとするは頗る禪に似たり。其の歌に

氣合とは風を握つてそのまゝに
足をとゞめて鼻によくきけ

とあり。禪によつて作りしものなるや疑ひなし。

弓と心

塚田大峰は儒者なり。曾つ喩を弓術に假りて座右銘を作り修爲の工夫を語る。

射や射、や以て君子に喩ふべし。これを他に責めずして、反つてこれを己れに求む。中ると中らざると、何ぞ弓矢にあらん。內、志回らず、外、禮倚らざれば未だ正鵠に向はず。修練こゝに在り、人の非を稱する勿れ。己れが是を揚ぐる勿れ。己れの過を文る勿れ。人の美を蔽ふなかれ。群居して爭ふなかれ、獨處して恥るなかれ。禍ひ至て懼れず、福至つて喜ばず、行ひ多きを務むる勿れ。行ひ多ければ、しばしば否なり。言多きを務むる勿れ、言多ければいよ〳〵毀る。行顧みる所あり、言履む所あり、唯だ口これ愼む、忠信これに止る。

心正うして行も亦正し。此の修爲の工夫は、繇つて以て弓術にも應用し得べきか。弓術家いふ。百發百中は指頭にあらずして心にあり。那須宗高の波にゆらめく扇の的を射んとする、時心に佛神を念じて淸浪靜かにして一矢、其の丹田の樞軸より出でて能く中りたるにても知るべしと。『武藝小傳』は或る書を引用して今の弓術修行者が手前を考へざることを慨して

末世の人、矢數を多く射て、多く通したるを本とするが故に自ら手前の道廢る。たゞし手前正しからざれば矢數通らずといへば、猶ほ手前を正しくすべし。孔子曰く弓射ること君子に似たり。的を外したるときは、却て其の身に求むるといへり

と。弓術の名手、片岡家延は五山の僧侶に心要を問ひ、後、洛の鴻儒人見卜幽の中庸を講じて未だ發せざるに已に發するの理を聞きて豁然と

して悟得せりといふものも亦此の心要を養ひたるに外ならずだ。

酒中の劍法

酒は心を昏迷せしむ。如何なる達人も醉うては其の術も自由ならず。『常靜子劍談』にいふ。

嘗て羽州莊内侯の士に石川伊太夫と稱しけるは、劍術に達し師範せし人なりしが、或る時、某の處に往き大醉して、其の還る途、行歩逶迤として前道定まらず。中路を分たず、其の僕、後にあつて思へらく、主人常に劍術をいふ、此の時に於て刃殺を用ひば之れに應ずること難かるべし、されど其の術も奥測り難ければ如何にや、と不審晴れざりしに、主人其の宅に歸り、後を顧みて、其の僕に言うて曰く、我、今日の體、汝、後にあつて能く見たるべし。斯の如きの時に於て豈に勝術あらんや。たゞ人の知らざりしが爲めに安んずるのみと。こゝを以ても知るべし。

と、彼の酒中、武を誇る如きもの眞に體達する所なき以て推すべし。

心の油斷

伊藤一刀齋の名手たるは、しば〳〵擧げたり。此の名手、尙ほ且つ心の油斷によつて不意を打たれしことあり。一刀齋の門人中に師を恨めるものありて、四五人語らひて師の愛妾を欺きすかして、之れと謀し合せ、泥酔中に大小を奪はせ、密に開き置ける戸より忍び入りて蚊帳の釣り手を切り落し、左右より切り掛るに、一刀齋驚き目さめて枕元の兩刀を探るに之れなければ、蚊帳をくゞり出て宵の酒器を手にして漸く之れを防ぎつゝ、飛び込むで敵の一刀を奪ひ取り、當るを幸ひと切りま

くれば、無手にてもかなはざりしもの、いかてかたまるべき、深手、淺手、數多負ひて逃げ去りたれど、一刀齋は深く女に心をゆるして此の不意打を受けしことを恥かしく思ひて、其の日より都を出てゝ東國に向ひしと『擊劍叢談』にあり。

武藝者の心得

井澤蟠龍軒に『武士訓』の著あり。武士の心得を說く叮嚀懇切、中に武藝者を戒めて

世俗、武藝、少し覺えぬれば、常に目かどをたて、假初の出合にも他の言を咎むるは血氣のために犯されて忠孝の理を忘れたるなり。ねがはくば裏に勇猛を含みて、表に和愛をあらはすべし。死すべきところに臨みて、人に先だちて一足も退かざるべし。但し死すべき場と、死すまじき場あり。死すべき場に死ぬるを義死と稱し、死すまじき場に死するを犬死とそしれり。

といひ、義のために命の惜むべからざるを說きて、

たとへば、人ありて、命を千貫萬貫にかへんといふとも、代ゆるものあるべからず、さほど大切なる命なれども義によつて拋つこと塵よりも輕し。しかるときは義ほど重きものあるべからず、源致雅の歌に

命をばかろきになして武士の
道よりおもき道あらめやは

風雅集に見えたり。

と。此の道念ありて武士たるの人格を養ふべし。

死を先にす

上杉謙信、宗謙禪師に問うて曰く「兵を進むるは神速を規矩とす。法を改むるの方便如何」と、禪師いふ。

「兵を進むるに死を先にす。法を弘むるも亦死を先にす、今日當體生を知りて死を知らず」

と、禪は兵を進むるが如く、兵は禪を弘むるに似たり。死中に生あり、生中に生なきもの相同じきか、死中に生を見る、

雨霰雪や氷とへだつれど
とくれば同じ谷川の水

の歌あり。然れども、これ未だ極意を得ず。生中に死を見る、

如何なれば雪や氷とへだつらん

とけぬもおなじ谷川の水

と、生死一如、當體解脱の理、此の中にあり。

心惑はず

禪僧大典は文を以て鳴る。同參の徒、其の心要を疑ひ、夜、相國寺畔の松原を通るを計り、突然、後より圓頂を抑ゆ、大典、平然として曰く「戯談するな」と、翌朝、其の者大典を訪うて昨夜怪しきものに出會はざりしやと問ふ。大典笑つて

「あれは同宿の惡戯だ」

「何故、それが解つた」

「抑へた手に溫味があつた、ありや人の手だ」と。雲居禪師にも亦此の種の逸話あり。不意の出來事に遇うて心惑はざること此の如くにし

て初めて心要を得たりといべし。

心先づ動く

伊豫の大洲侯、槍頭を把つて盤珪禪師に擬す、禪師、平然として曰く、「槍未だ動かずして公の心先づ動く」と、徐ろに槍頭を拂つて禪要を說くと、盤珪は近世の高德なり。曾て不生の心を說くと、たとへば不生と申すものは、明かなる鏡のやうなものてござる、鏡といふものは、我に何にてもうつりたらば見ようとは存ぜばども、何にても鏡に向へばうつらせいてはかなはぬ、又其のうつるものをのけたれば其の鏡を見まいとは存ぜねども取りのければうつらぬが不生の氣を申すものてござる、と、敵の機心先づ我が心に動く、之れ應用自在なる所以なり。

武者修行

、劍槍等の術を以て諸國を遍歷して、其の技を練るを武者修行といふ。これ恰も禪の修行者が身を行雲流水に任せて諸方の叢林を訪ねて道を修むるに似たり。中古、禪風六十餘州に吹き荒みし頃、此の武者修行も起りて、足利氏の季世には盛に行はれしと見え『嬉遊笑覽』には室町日記を引きて足利義輝の三好を伐たるゝ時「方々に隱れ住みける浪人、又たは武者修行にまかり出て暫くの間方々に滯留しける武士なぞを撰りあつめ」とあるをいふ。塚原卜傳宮本武藏の廻國のことは人口に膾炙す、其の頃、兵法天下一日本開山無双權之助といふ者、關八州は申すに及ばず、奥までも修行仕り手合を見へ候へども我に合するものなし、

故に西國方へ兵法修行に罷り下り候」といひて播磨にて宮本武藏に會ひ、終に其の弟子となりしと傳へ。彼の伊藤一刀齋は、將軍より召されしも、諸國修行いたしたければとて小野次郎左衛門を吹擧して、身は雲水に任せたりといふ。此のことは近年までも行はれ、同じ道の者の家を頼りて食事宿泊を爲し、且つ草鞋とて路費を與へくれて、次ぎから次ぎへ廻り行くこと、禪の修行者の雲水といひ、拜宿點心又は草鞋を得て廻ると其の趣を同じうしたりしなり。

劍客禪話終

禪門叢書第七編
定價金八拾錢

大正五年六月一日印刷
大正五年六月四日發行

著作者　加藤熊一郎
發行者　高島大圓　東京市小石川區原町六番地
印刷者　佐久間衡治　東京市京橋區西紺屋町廿七番地
印刷所　株式會社秀英舍　東京市京橋區西紺屋町廿七番地

不許複製

發行所　東京市小石川區原町六番地　振替東京一五六八六　電話番町二六〇八
丙午出版社

大正文庫

明治昭代の榮光を記念し大正聖世の文敎に貢獻せむがために現代第一流の宗敎家學者文藝家を煩はして『大正文庫』を發行し今や全部十二册こゝに完成す外形は電車汽車中の繙讀に便に內容は處世修養の伴侶に好し——（全部完成）

第一編 明治思想小史 文學博士三宅雪嶺先生著（定價平錢郵稅六錢）

第二編 此一筋 文學士沼波瓊音先生著（定價七十錢郵稅八錢）

第三編 來世の有無 新佛敎徒同志會編（定價七十錢郵稅八錢）

第四編 禪の極致 大內青巒先生著（定價六十錢郵稅八錢）

第五編 予が婦人觀 黑岩周六先生著（定價六十錢郵稅八錢）

第六編 狐禪狸詩 釋淸潭先生著（定價六十錢郵稅八錢）

第七編 噴火口 高島米峰先生著（定價八十錢郵稅八錢）

第八編 ひとみの旅 杉村楚人冠先生著（定價六十錢郵稅八錢）

第九編 書窓車窓 加藤咄堂先生著（定價六十錢郵稅八錢）

第十編 人と超人 ショウ原著堺利彥先生譯（定價平錢郵稅八錢）

第十一編 六十一年 文學博士村上亨精先生著（定價平錢郵稅八錢）

第十二編 沈默の饒舌 內田魯庵先生著（定價八十錢郵稅八錢）

東洋大學敎授 境野黃洋先生新著

佛敎史論

四六判 箱入 定價一圓三十錢 郵稅八錢

著者が佛敎史家としての權威なると今更言ふまでもなしその警拔なる觀察と明快なる論斷とは多年學界の珍たりしところ曩に『活ける宗敎』を著はして日本佛敎の代表的偉人が親しく體驗したる內的生活の上に活躍せる眞の宗敎を語り大に敎界の讀書子を益するところありしが今又印度支那日本の佛敎が過去三千年間に於ける重要の問題十有數條を提げ來りてこれに快刀亂麻を斷つの結論を與ふ殊に一正確なる事實に基いて自分の立場を定めると同時にどこまでも佛敎宣傳の精神を離れざるところ」著者の窃に誇とするところにして又最も尊重すべき態度なりとす

井上哲次郎博士序 橘 惠勝先生新著

佛敎心理の研究

菊判 箱入 定價一圓貳十錢 郵稅八錢

著者は佛敎の研究に於て一家の見を樹てたる篤學の士にしてその論斷往々にして先人未到の境に入る本書は多年研究の結果に基き西洋の心理學以外別に佛敎心理學の可能を論定し彼此對照以て佛敎心理の微を闡き細を穿つ今此の新研究の發表は蓋し學會の幸慶ならずとせず

『萬朝報』記者　大住嘯風先生著

現代思想講話

定價金一圓廿錢
郵稅金八錢

現代人は須く現代の思想に通ぜざるべからず現代の思想に通ぜむにはまづ其の思想の由來せる傳說を究め遡んでゼームス、オイケン、ベルダソンの如き現代思想を代表する大思想家の說くところを學ぶ著者今此等碩學の著作の全體に精緻の研究を加へ深邃なるその根本思想を提へ來りて明快直截に講話し人をして一讀直に現代思想に通曉せしむると共に又親しく大思想家に接して自己を樂ひ人生の意義を了得せしめんとす掬にこれ思想講話に一新生面を開きたるの名著

幕村醫士　久津見蕨村先生著

現代八面鋒

定價金八拾錢
郵稅金八錢

物平を得ざれば則ち鳴る而も著者はたゞ自ら鳴るを以て足れりとせず之を發して八面に當り散し十方に喝破すその鋒先の向ふところ女侵あり倫理あり藝者あり教育あり浪花節あり哲學あり宗教あり眞にこれ多角多趣味の一大珍書

幕村醫士　久津見蕨村先生著

眞人僞人

定價金壹圓
郵稅金八錢

先生書を著はすこと數次而して發賣禁止の厄命を蒙ること亦數次聊か痛癢を起して朝野の名士一百餘人を捕へ大にこれに喰つてかゝる眞人はこゝに其面目を揚げ僞人はこゝにその面皮を剝かるその論辯辛辣その評深刻洵に筆端風を生じて文に聲あるの慨あり

堺利彥先生著

樂天囚人

定價金六拾錢
郵稅金六錢

此書は狂暴、不平、怨恨、嫉毒、殘忍、無恥、悖逆を以て世に目せらるる社會主義者が人の子として親として夫として友として將た人類の一員として宇宙の一分子として如何なる態度を持するかを其獄中生活に於て率直に露骨に赤裸々に發揮せる者之を一言にすれば社會主義者の安心を語れる者

欠

三宅雪嶺先生序
高島米峰先生著

廣長舌

定價金七十錢
郵稅金八錢

加藤咄堂先生曰はく「米峰今胸中鬱勃の氣を吁して『廣長舌』一篇を著す其の言ふ所は世俗に疎なる學者輩の企だて及ばざる所にして其の論ずる所は肉を刺し骨を透して當世人士の肺腑を剖る恂にこれ堂々世の大文字」と

惡職

加藤弘之先生序
高島米峰先生著

定價金八十錢
郵稅金八錢

著者曰はく「これ僕が平生の惡職史なり父なく母なく學なく職なく疎に加ふるに資金なく後援なき裸一貫の青年が如何にしてこの生活難の世に處し來りたるかを語るは又以て現代青年諸君が新運命の開拓に資する處なきを保せざるべし」と

理想的商業

島田三郎先生序
高島米峰先生著

定價金二十五錢
郵稅金六錢

賣ると買ふとは對峙なりお客成張つて商人屈と雖れること豈だ道理なしそれ賣るに法あり買ふに道ありこの法を說きこの道を敎へ以てお客樣といふものゝ立場を明にし以て商人といふものゝ位置を高め兩して買ふものにはうんと買へと勸め賣るものにはしこたま賣れと說くるものは即ちこの書なり

修養史譚

前外務大臣 伯爵 林董閣下序
東北大學總長 澤柳政太郎先生序
樱所 千河岸貫一先生著

定價金壹圓
郵稅金八錢

林伯爵曰はく「此の書を繙くに古今東西の史乘より具體同類の事實二百對を擧げたる者にして敎師これを用ゐば以て講話の資を得べく父母これを讀まば以て庭訓の料たらむ」と

欠

前外務大臣 伯爵 林 董閣下 篠澤

修養の模範

定價金七拾錢
郵稅金八錢

家庭では父母が子供にする話の種に因り學校では教師が生徒にする話材の陳腐なのに窮し寺院や教會では辯士が引用する美譚の乏しいのに困り而して青年は讀んで自修の資とするに足る程の書籍の少ないのを嘆いて居る際者これを憂へ書を讀む毎に精神修養の模範とするに足るやうな美談逸話を抄譯摘錄して遂にこの書を成すに至つたのである佛社今こゝに世の宗教家教育家及び父兄青年諸君の前に此の書の發行を報告することとなつたのは實に無上の光榮である

文學博士 村上專精先生著

修養論

定價金壹圓
郵稅金八錢

古聖實踐の芳躅を追り前賢研究の結果を收め苟も規範とするに足るべき名論金言は悉くこれを提引して依て以て極めて平易に修養の理論を說明し苟も模範とするに足るべき善行美譚は悉くこれを蒐錄して依つて以て極めて明快に修養の方法を叙述す恐らくはこれ斯界未だあらざる精到完備の修養書たらむなり

文學博士 村上專精先生著

自信錄

改訂增補
定價金六拾錢
郵稅金八錢

これ博士の新著にして又實に博士が信仰の告白なり言々己の實驗を語り句々心の奥底を披瀝すまづ筆を「人生の目的」に起して「自力と他力」の異同を明にし「實在と我れ」「佛陀と我れ」の關係より「自力と他力」の異同に及びて之を結ぶ五章廿七節說いて至らざるなく述べて盡さゞるなし進歩せる佛教學者の見解は此書によつて窺ふべく敎度なる佛教信者の態度は此書によつて知るを得べし

文學博士 村上專精先生著

誠のしるべ

定價金四拾錢
郵稅金八錢

讀は實に人生の基礎をなすものにして政治も實業も宗教も道德も教育も凡て此の根底の上に立たざるべからず今や村上先生古今東西の事例を引いてその然る所以を詳記せらる荷も誠を體得して眞の人たらんと欲するものは此書を讀め

文學博士 村上專精先生著

女性訓

定價金四十錢
郵稅金六錢

スタンフオルド大學總長 ジヨルダン博士原著
マスター、オブ、アーツ 中村平先生譯

人物の修養

定價金五十錢
郵稅金八錢

本書の內容は天職中庸實業體德節操の五調を以て女子座右の規箴となすにあり多學女子教育に經驗を積ねたる村上博士はよく女子の欲點を攫み來りて之を訓誡すその親切實に至れり盡せり凡て世の淑女たらむと欲する者は必ず其の座右を離すべからざる珍書なり

澤柳前文部次官等に長文の序を草す其の一節に曰く、「ジヨルダン博士は當今世界有數の學者にして北米第一流の人物なり且外國人中最も深厚なる同情を我日本及日本人に寄せらるゝ紳士なり我國人がその所說その意見を知らむと欲するの情並に之を知ることに依て利すること尠からざるは言を待たず……我日本人は本書に對し尊敬と同情とを表し以て博士に報ゆるところあらんことを希望す」と

ウヰリヤム、ハイド氏原著
鈴木券太郎先生譯補
修養處世

自己測量

定價金五十錢
郵稅金八錢

これ米國に於ける最新の處世術なり最新の修養法なり而して又實に最新の記術法に成れる名著なり今移して以てこれを我邦現代の社會に薦めむとするもの他なし晉人が惡德邪辯の頽朴人格完成の砥礪立身處生の嚮導社會經營の軌範として眞に得難き大教訓たるを以てなり來れ青年諸等がこの生活難の世に處して新しき運命の聽庫を開くべき鍵はこゝにあり

黑岩周六先生譯演

人生問題

定價金七拾錢
郵稅金八錢

人生とは何ぞや是れ千古の疑問なり哲人之を說き碩學之を論じて而して懷疑の雲益々密に苦悶の人愈々多からむとす然るに現代思想界の泰斗黑岩先生自ら人生問題に逢着して疑問の源泉を探り大に其深趣を得て玆に此書あり叙ぶる所神の有無に始まり人生の悲觀樂觀に終る眞に天鎭の妙音なり世の悶ある人疑ある人迷に來つて此福音に接せよ庶幾くは平穩と滿足と活力とを得て淵く且つ光ある人生に觸着することを得ん

東北大學總長
澤柳政太郎先生著

退耕錄

正價金壹圓
郵稅金八錢

著者の序文に曰はく「官遊十數年其間人よりも多く云ひ多く論じたるも何ぼ腹ふくるゝ心地を忍んで言はざりし者多し」と知るべし本書は先生が實歴上百般の問題に逢着して滿腔の所感を披瀝したるものなることを飄刺あり教訓あり感慨あり痛罵あり氣焔あり理窟あり警抜にして透徹せる議論あり大膽にして穩健なる斷案あり言はんと欲する所は言ひ盡くして遠も時勢に阿らず誠に憂國憤世の大文字なり　經世家教育家宗教家及び現代の青年諸君は須く一讀せざるべからず

フエヒネル先生原著
文學士　平岡元吉先生譯

死後の生活

定價金五拾錢
郵稅金八錢

本書は現世の事實を基とし最高の詩的想像を參へ或は歸納的に或は類比的に未來生活を縱横に叙述したる詩と科學との靈妙なる融合にして此書によれば千里眼靈等の不可思議なる現象も容易に解釋することを得故に本書は親愛者を失ひし人死生の疑惑に苦しめる者の無二の慰藉となり一般の讀者に津々たる興味を配ち又學者研究者に甚だ有益なる暗示刺戟を與ふるや疑ふ可からず

杉村縱横先生譯補

強肺術と肺病全快談

定價金九十錢
郵稅金八錢

本書前編は歐米に於ける最新の肺病根治法にして親しく譯者が實驗してその効果を收めたるもの後編は日本現代の名士が肺病全快の實驗談にしてこれによつて從來不治の病と定められたる肺病も必ず全快すべきものなることを立證せられたり世の醫師に弄ばれ賣藥に欺かれたる人々は本書を繙いて天來の福音に接せよ

文學博士　井上圓了先生著

南半球五萬哩

定價金九十錢
郵稅金八錢

南半球を一周し赤道を四過し濠洲南阿南米の各洲は勿論北は北極海より南はマゼラン海峽まで行程實に五萬哩の大旅行を試みて其の間の山容水態國情民俗の珍奇怪異を記して遺憾なし挿畫五十餘上更に花を添ふ

文學博士　井上圓了先生著

活佛教

定價金壹圓拾錢
郵稅金八錢

明治の宗教界思想界を震驚せしめたりし「佛教活論」は完成す僧侶の活躍寺院の興隆期して待つべし眞にこれ死佛教をして活佛教たらしむるの福音

帝國大學教授
文學博士　高楠順次郎先生著

國民と宗教

定價金七十錢
郵稅金八錢

本書は國民と宗教との關係を述べたる論文に非ずして著者が該博なる學識と深厚なる同情とを傾注して日本人が國民的生活の理想と宗教的生活の理想とを詳說せられたる新著也苟も日本の國民たる者日本の宗教家たる者は一讀せざるべからざる佳書たるのみならず行文は通俗平明なる講話體なれば又以て演說講話の好模範たるべし◉附錄として研究上藝術上極めて重要の論文數種を收む悉く學界の珍

文學博士　松本文三郎先生閲
文學士　羽溪了諦先生著

釋尊の研究

定價金壹圓
郵稅金八錢

本書は釋尊以前の婆羅門教の理想に起して釋尊當時の印度諸學派の歇廢より進んで釋尊の根本思想に說き及び以て釋尊の世界觀人生觀生死問題の解決及解脫の方法を明にし更に釋尊の涅槃に移りこゝに著者の全力を傾倒して詳に涅槃の意義を解し具に東西學者の謬論を破る誠に教界及學界に於ける尊重すべき一大新研究なりと稱すべし

京都帝國大學文科大學長
文學博士　松本文三郎先生著

彌勒淨土論

定價金壹圓
郵稅金八錢

宗教學上殊に佛教史上理論實際の兩方面に渉り極めて重要なる地歩を占むるものは「淨土の思想」なり而して其半面は「阿彌陀淨土」の闡明により光輝を放てるも其他の半面は「彌勒淨土」の埋沒によりて全然暗黑に陥すこれ豈佛教史上の一大缺點にしてまた實に佛教界の一大恨事ならずや松本博士多年の蘊蓄を傾けその專攻する學科の立脚地より「彌勒淨土の由來淵源を詳論し博士の舊著『極樂淨土論』と相待つて玆に佛教の淨土思想研究は完璧を成せり何人か又此の新研究を味はずして惑に佛教の淨土思想を談ぜんとするものぞ

阿彌陀佛

ポール、ケーラス先生著
學習院教授鈴木大拙先生譯

定價金三十五錢
郵稅金六錢

阿彌陀佛とは何ぞや是れ佛教の根本問題也ケーラス博士その彫鐫を揮ひ殆ど小說的結構を以て通俗に之が解釋を試む宜なりその歐米讀書界に好評喧々たることや猶社會に十年博士と居を同じうし最も博士と親密なる大拙先生を煩はして此和譯を得たり豈啻に佛の意無に惑ひ心の不安に悶ゆる人のみこれを讀むべしと曾はむや

釋迦牟尼傳

東京帝國大學講師
文學士 菅盤大定先生著

定價金七十錢
郵稅金八錢

佛傳の大部を占むるものは神秘なる傳說なり世人或は直にこれを抹殺して顧みざるべしと雖是等の傳說が古來深く佛徒の頭腦を支配せるより見ればその裏に何等かの意義を有せざるはなかるべし此著は主として是等の傳說の起原を尋ね意義を究め南北兩傳大小兩系の相違を比較對照し以て此の千古の大聖釋迦牟尼佛の眞面目を傳へむとするに在り

孔子傳

文學博士 遠藤隆吉先生著

定價金壹圓四十錢
郵稅金十二錢

その涉獵極めて廣汎にその材料極めて豐富にその觀察極めて銳利にその論斷極めて適確なるは勿論殊に各編各章到處に博士獨特の奇想と先哲未曾の結論とに接するを得るは洵に本書の特色として天下に誇稱するに足るところ

王陽明

高等師範學校講師
五理學三郎先生著

定價金一圓五十錢
郵稅金十二錢

哲人王陽明もまた凡人吾等の如く事毎に理想と現實との衝突に遭うて悲觀し懊惱したりし也しかも能く自ら百般の問題を解決し盡くして遂に悟徹の妙境に入る豈偉ならずや本書はこの王陽明の人格を主題として其の實生活と學說とを併叙し依つて以て凡人が如何にして哲人たるを得しかの歷程を明にし吾等が修養の範としたる者なり

東洋大學講師
境野黃洋先生著
增補

聖德太子傳

定價金五十五錢
郵稅金八錢

佛教史家として夙に令名ある境野先生が其の熟練なる史識と圓熟せる文才とを傾倒して日本文明の開拓者日本佛教の教主たる聖德太子の事蹟を叙述し併て當時社會の政教習俗の特色を發揮したる名著にして文章の明快論斷の適確實に他に其の匹を見ざる所

大內青巒先生序
高島米峰先生著

一休和尚傳

定價金九十錢
郵稅金八錢

元日に髑髏を振廻はして人の度肝を抜き來朝に糞を踏つて梵天に捧げた後一休後小松帝の皇子として九重雲深きところに榮華の夢を見やうともせず一生一笠ただ平民的教化のために一生を捻つた彼一休痴か狂かはた一大偉人か彼が眞面目そは本書の上に躍動して居る

曹洞宗大學教授
忽滑谷快天先生著

達磨と陽明

定價金壹圓拾錢
郵稅金八錢

本書は王譯二學を比較對論して譯學の精髓を發揮すると同時に王學の眼目を豁開して餘蘊なく遺憾の工夫修養の方法爲學の用心精神錬磨人格養成等一として佛はらざるなし眞にこれ精神界の指南針にして亦實踐道德の指導者たり

明楊起元評註
加藤咄堂先生和譯

和譯維摩經評註

定價金七十錢
郵稅金八錢

本書は明の楊起元が評を加へ註を施して斯經の哲理と文學とを闡明したるものを更に加藤咄堂先生が平明暢達の文を以て之を和譯し侍圖を陪して通俗會解に便ならしめしもの世の佛を學び譯を談せむと欲する者には勿論講習本として亦最も適當なり

加藤咄堂先生著

原人論講話

定價金六十錢
郵稅金八錢

佛教典籍多しと雖も之れを儒道二教の教義と比較して佛の樹給一頭地を抜く所以を明にせるもの此の原人論に過ぎたるはなし著者今獨得なる通俗平易の筆を以て叮嚀懇切に此の原人論を講述し且つ近代思想を以て批評を加へ卷頭には添ふるに古人の解說を以てしたれば佛教の大意と人生問題の解決とは此の書によりて知ることを得べし

加藤咄堂先生著

通俗講話の理論及方法

定價金九十錢
郵稅金八錢

通俗教育の必要日に迫りてしかも通俗に講話し得べき人幾人かある本書は多年の研究と豐富なる經驗とを有する加藤先生が如何にせば通俗に講話して聽者を感動せしめ得べきかの理論と方法とを極めて親切に解說し多くの例話を擧げてその使用法を示されたるものなれば教化の急缺雄辯の奥義講話の資料收めて一卷の中に在り苟も講壇に立たむと欲する人一たび本書を繙かむか愈にして一箇理想的の通俗講話者たるを得む

東洋大學講師
釋清潭先生著

寒山詩新釋

定價金五十錢
郵稅金八錢

是れ佛か是れ仙か是狂漢か得て解すべからざるものは寒山士なり是れ讖語か是れ詩語か是れ佛語か得て解すべからざるものは寒山詩なり宜なり千古の疑團牢固として拔けざることや著者精深雄大の學と才とを以て一筆勾斷彼が面目ここに於てか露出す寒山詩釋を知らんと欲するものは須らく此書を以て指南車となすべし

東洋大學講師
釋清潭先生著
和漢高僧

名詩新釋

定價金五十錢
郵稅金六十錢

本書、漢は唐宋元明清五朝の高僧に涉り和は虎關以後絕海義堂に至る大凡七十餘人の名詩を新釋したるものなり其詩雄渾なるもの高古なるもの典雅なるもの勁健なるもの流麗なるもの清秀なるもの閑淡なるもの之れに悉く字解と讀法と評論とを付し平易を旨として深切を極む和漢高僧詩篇を釋義して此くの如きもの恐くは空前なるべし

慶應義塾大學教授
忽滑谷快天先生評釋
和漢

名士參禪集

定價金壹圓
郵稅金六錢

本書は日本に於ては後醍醐天皇花園天皇龜山天皇の聖帝より北條時頼北條時宗武田信玄上杉謙信前田利家楠正成等古今の名臣支那に於ては唐の宣宗皇帝宋の太宗皇帝等の聖帝より黃山谷蘇東坡白樂天張無盡懷休等の碩學が參禪せる佳話を蒐め且和漢禪匠に關する逸話奇談を合せて之に批評を加へ學道の正路を示し在家參禪の資糧に供する者にして讀者をして坐ながら古今の鴻儒碩學と禪を商量し名僧大德の謦欬に接するを得しむ

マクス、ミュラー博士原著
文學士清水友次郎先生譯

宗教學綱要

定價金五十五錢
郵稅金八錢

清水學士佛教大學に教授として宗教學を講ずるや近代稀有の宗教學者マクス、ミュラー博士の原著を講本とし隨つて譯し隨つて教ふ今これを補訂潤飾して以て世に公にす蓋し邦文の宗教學書としては唯一無二の良書なり

第三高等學校教授
文學士野々村直太郎先生著

宗教と倫理

定價金五十錢
郵稅金八錢

正にこれ新宗教論なり新道德論なり而してまた實に人生問題最後の解決書なり世の靈と肉との餓渴に悩める者知と情との衝突に苦しめるもの若しくは夫の齋宗教と齋道德とに厭けるものは速に來つてこゝに絲上の安樂地を見出せ・附錄には二宮尊德翁の宗教論を評す

眞宗補教 北條瀧雄先生著

眞宗の教義

定價金二圓
郵稅金十二錢

眞宗は實に日本佛教の精華にして又實に日本佛教の最大勢力なり本書は博識雄學を以て聞えたる北條師が多年の蘊蓄を傾けて宗祖親鸞上人を中心とし其師法然上人と其資蓮如上人との教義を信仰上より研究したる結果を組織的に叙述したる者なり他力教の秘奥を探り本願寺の盛なる所以を知らむとする者の必讀を冀ふ

帝國大學講師 ドクトル 荻原雲來先生新著

實習梵語學

定價一圓七十錢 郵稅金八錢

佛教を學ばむとするものは言ふまでもなし印度の文學美術を研究せむとするものも亦梵字梵語を知ることなくしては常に霞を隔てゝ花を觀るの憾なくはあらずしかも邦人にして梵語を學ばむには歐語を知らざるべからざるの不便あり著者常にこれを慨き邦語を以てこれを解說せむことに努力するの實に十數年而して今や漸く本書成る自今以後英字母二十六を讀み得る程の人は容易に梵字梵語に通達し得べし殊に悉曇十八章を擧げてこれに新體梵字を配し一々發音を附したる全く斯界空前の試みにして大に天下に誇示するに足るの事業たり

著者南天竺楞伽島に入りスマンガラ僧正の會下にありて巴利語を修むること多年其平生手記する所と廻游延以下原語の文典と歐洲人の手に成れる巴梵兩語の語典とを併せ參考し以て本書を成すに至れり叙述の前後には多大の注意を拂ひて簡より繁に入り易より難に進むの方法に從ひたれば初學者にして巴利語並に梵語を修めんとするものには良好の伴侶たるべし

文學博士 高楠順次郎先生閲 曹洞宗大學教授 立花俊道先生著

巴利語文典

定價金一圓 郵稅金八錢

悉曇雲章 高楠順次郎先生序 阿滿得壽先生著 眞筆者

悉曇阿彌陀經

定價金一圓 郵稅金八錢

悉曇阿彌陀經とは古來日本に傳はりたる梵文阿彌陀經即ち極樂莊嚴大乘經なり特に悉曇と冠語せしは新體梵字に簡ばんが爲なり梵文に加ふるに漢字羅馬字音を附し脚注には馬博士の訂正本との異同をもあげ終りに訂正本、辭書、唐秦二譯を揭げたり學者此の書によらば悉曇學の一端を窺ふに易からん

平子鐸嶺先生遺著

補校 法王帝說證註

上宮聖德

正價金一圓 郵稅金八錢

『上宮聖德法王帝說』はその記事切實その文詞醇古多く寧樂已往の記錄を取つて正史の闕を補ひ誠に史家必讀の書たること今こゝに贅するを須ゐず而して狩谷棭齋先生の『證註』に至つては群說を折衷し正譌を辨別して先人未發の見解甚だ少からざるは史家の夙に嘆服するところしかも尙多少の遺漏あるを免れざるなり然るに我が平子鐸嶺先生博覽强記にして史眼犀利棭齋先生の未だ見ざるを言ひ誤れるを訂し足らざるを補うて錦上更に花を添ふ敢て之を史家と佛家とに薦むる所以なり

文學博士 村上專精先生編

科註原人論

定價金十二錢 郵稅金二錢

科註大乘起信論

定價金十六錢 郵稅金二錢

この二書は共に華記嘗入れ等に便せんがため本文の上下に空白を存し體きたれば學校の教科書學會の課本として最も適當なり

高島米峰先生著 學生參考

東洋史

定價金十三錢 郵稅金二錢

著者曰はく「形に於ては恐らく既刊東洋史中の最も小なるものたるべからむも學生を奬くる點に於ては或は最も大なるものあるべきを信じて疑はざるなり」と

文學博士 三宅雪嶺先生著 增訂

偉人の跡

定價金壹圓 郵稅金八錢

古今東西の偉人數十名を捕へ其の時代を語り其の性格を論じ其の功過を明にす艱澁奇拔にして行文微妙今の偉人の眼に映じたる古の偉人の眞面目は躍如として玆に活動す人若し偉人とは如何なる者か偉人は如何にして修發したるか偉人は如何なる事業を爲せしか偉人は死後に何を遺せしか社會は如何に偉人の死を觀しかを知らむと欲せば冀くは此の偉人の偉著に問へ

文學博士 三宅雪嶺先生著

小泡十種

定價金四十五錢 郵稅金八錢

博士の學殖富贍に博士の見識卓越に博士の文章超凡なると世既に定評あり今此學と識と文とを傾倒して此著を作す政治を論じ宗教を說き文學を語り人物を評す其の筆の向ふところ流れては浩瀚盡きざる大河となり散じては繽紛限りなき飛沫となる小泡か激瀾か蓋し近代稀有の快著也

文學博士　三宅雪嶺先生著

明治思想小史

定價金五十錢
郵稅金六錢

日本の大思想家三宅雪嶺先生今や思想の最高壇に立つて明治思想の變遷を語るまづ明治以前の思想界に筆を起して維新の思想に入り進んで最近四十五年間の政治經濟學術道德宗教教育社會等の各方面に亘り深刻の觀察を遂しうして劃切の結論に到る今や大正維新の風雲に際會せる日本國民は明治年間國運の大發展が果して如何なる思想の產物なりしかを知悉して依て以て第二の維新を大成せざるべからず果して然らば此書これ實に大正國民必讀の書

文學士　沼波瓊音先生著

此一筋

定價金七十錢
郵稅金八錢

現時俳壇の飛將軍、沼波先生の新著なり。先生曰はく、「この書に、大知識大慈想ありて、天下の士、必ず一本を求めよとは言はず。たゞ書中、或物あつて存す。この或物は、或人には輕んぜられんも、或人にはゾクゾクと嬉しがらるゝなり。其の嬉しがりそうな方にのみ、これを傳む。」と本屋曰はく、「輕んずるも可、嬉しがるも不可なし。たゞ買ふ人の多からむことを、切望に堪へず。」と

新佛教徒同志會編

來世之有無

定價金七十錢
郵稅金八錢

吾等の死後はどうなるか地獄があるか極樂があるか抑々又吾等の靈魂は滅するのか滅しないのか元來吾等に靈魂などゝいふものがあるのか然いのか凡そ此くの如きの難問題に關し現代各方面の名士二百數十人の解答を得てこれを滿載したのが本書である古來の大疑團も本書一たび出づるに及んで忽ち雲散霧消するであらう

高島米峰先生著

現代青年論

定價金十五錢
郵稅金二錢

本書は著者が某會社の青年に向つて講演せるものゝ筆記にして各種青年會などの施本として最も適當なり內容目次左の如し
一、青年の力—二、今の青年は依賴心が强い—三、今の青年には氣慨がない—四、今の青年は成功を急ぐ—五、今の青年は一事に精しくなくて多岐に勞する—六、今の青年は思想が薄弱である—七、今の青年は信仰が乏しい—八、今の青年は同情が乏しい

大內青巒先生著
結城素明畫伯畫

禪の極致

定價金六十錢
郵稅金八錢

不立文字の教理も、文字に依らざれば知ること能はず。以心傳心の妙諦も、言語を離れては傳ふること能はず。但惜しむ、古來禪を說くもの、徒に難解の語句を弄して、人をして愈々迷はしむることを。大內先生學深く德高く、敎禪二面に於て、眞に現代の達人たり。殊に先生、平談俗話を以て、幽玄の理を說き、深遠の法を語ること、殆ど天下獨步、而して本書は即ち先生得意の作、禪の極意、正にこれに盡きたりと稱するも、敢て溢美にあらざるなり。附錄『五位頌講話』また先生獨創の見識を以て、縱橫に講解す、蓋近來の大文字なり

黑岩周六先生著

予が婦人觀

定價金六十錢
郵稅金八錢

進步的にして却て稍保守的の檢束あり古きが如くして實は極めて新しき趣味を有する黑岩先生の婦人觀はトルストイ的の絕對貞操觀に配合するに經濟的獨立の實際問題を以てし種々樣々の方面よりして蹠案の片鱗を示しつゝ遂に人をして成程と承服せしむる老巧親切の文を爲す眞に現今婦人問題の燈明臺也世の年頃の娘その父母及び女子敎育家の精讀を冀ふ

釋　清潭先生著

狐禪狸詩

定價金六十錢
郵稅金八錢

今世何ぞ夫れ狐禪狸詩の多きや著者大獅子吼猛然として起ち狐禪の窟穴詩の窟一蹴して之を壞る其の毫端に上りしもの實に此の一書なり今や裝成りて人間に橫行す世の狐禪狸詩に太平なる者は讀むも詮なしたゞそれ狐禪狸詩に不平なる者のみこれを讀むべし作詩壇上別に一新生面を開き人をして詩禪一味の妙境界に遊ばしむ

中原鄂州老師著
大石正巳居士序　飯田欠伸隱居士跋

南天棒禪話

定價金一圓廿錢
郵稅金八錢

機鋒辛辣得て近づくべからざるが如くにしてしかも慈敎懇到兒女童孩も亦度せずむば止まざるもの實に是れ吾が南天棒鄂州老師の面目なり今著はすところの禪話一卷卷中の所談悉くこれ釋尊拈華迦葉微笑する底の消の縱橫に說き無礙に辯じて眞に四方八面來旋風打の概あり人若し南天の痛棒亂下し來るの間に立ちて平然としてこれを喫了し得ば則ち人間の大事こゝに成るべし冀くばまづ聊かこれを試みよ

釋清潭先生主筆
月刊雜誌
漢詩
一冊五錢
一年分五十錢

釋清潭先生を中心とせる漢詩團淡社の機關雜誌にして毎號「作詩法講話」「三體詩講話」「陶淵明集講話」及び社友の作品を掲載す
別に漢詩漢文の添刪代作等の規定あり切手五錢送付せらるれば規則掲載の「漢詩」一部贈呈す

土屋鳳洲先生著
晩晴樓文鈔
定價金八十五錢
郵稅金八錢

本書は一代の鴻儒文壇の巨匠たる土屋弘先生の文集にして衷あり說あり辨あり序あり記あり碑あり傳あり書あり贊銘あり題跋あり凡そ漢文の諸體備はらずといふことなし苟も漢文を學ばむと欲するものこれを模範とせば又良師なきを憂ふるみ須ゐざるなり殊に明治時代の碩學文豪辭を極めて各篇に讃評を加ふ卒然卷を開けば天下の文星一堂に會して道を談じ文を論ずるの偉觀を成す絲陰深處にこれを繙かば涼風自ら起つて神氣清爽を覺えむ

村上專精先生序
高島米峰先生著
噴火口
定價金八十錢
郵稅金八錢

著者心内に鬱積する熱火今や轟然として爆發しこゝに碎となり砂となり灰となりて四方に飛散す之を怪狀と言ふべきか之を偉觀と稱すべきか著者自らこれを知らずたゞ著者はその舊著『廣長舌』『惡戰』等に比し來つて本書の熱論惡文更に一段の進境あるを確信するのみ

文學博士 村上專精先生主筆
月刊雜誌
人道講話
一冊七錢五厘
一年分八十二錢

「人道講話」は村上先生の人道講話を連載する者
「人道講話」は教育と宗教と道德との三面を有す
「人道講話」は精神の涵養を以て教育の本領とす
「人道講話」は人道の實踐を以て宗教の要務とす
「人道講話」は父母の孝養を以て道德の大本とす

記者 松本博士、内藤博士、新村博士、上田博士、小川博士
月刊雜誌
藝文
一冊廿二錢
半年分一圓廿錢
一年分二圓卅錢

「藝文」は京都帝國大學教授及び其他學者の研究創作を發表する機關雜誌也
「藝文」は東西兩洋の學術文藝に對し最謹嚴深刻の批判を下さむとする者也
「藝文」は關西思想界の中心として榮て關東の思想界を風靡せむとする者也

「東京朝日」記者 杉村楚人冠先生著
ひとみの旅
定價金六十錢
郵稅金八錢

長い足、鋭い眼、明な頭、太いペン、而して此書成る。しかも山水の景を描かず、風月の樂を語らず、專ら現代を寫し、人間を論ず。曾て、洛陽の紙價を貴からしめたる『大英遊記』以來の名文にして、又曾て、發賣禁止の嚴命を蒙りたる『七花八裂』以來の奇著なり。

加藤咄堂先生著
書窓車窓
定價金六十錢
郵稅金八錢

天地の秘奥を探り、人心の機微を明にす、乃ちこゝに天籟あり、地籟あり、人籟あり。これによつて世界の知識を求むべく、これによつて古今の德澤に浴すべし。内に在りては書窓の良師、外に出でゝは車窓の善友、一卷の書また尊貴なるかな。

學習院教授 帝國大學講師 鈴木大拙先生著
スエデンボルグ
定價金五十錢
郵稅金八錢

神學界の革命家、天界地獄の遍歷者、學界の偉人、神秘界の大王、古今獨歩の千里眼、精力無比の學者、明敏透徹の科學者、出俗脫塵の高士、之を一身を集めたるをスエデンボルグとなす。吾國今や宗教思想界の風雲漸くまさに急ならんとす、精神を奬はんとするもの、時世を憂ふるもの、必ず此人を知らざるべからず。これ此書成る所以。

文學博士 村上專精先生著

六十一年

定價金九十錢
郵稅金八錢

これ村上博士が過去六十一年間惡戰苦鬪の活歴史を大膽に赤裸々に叙述せられたるものにして現代青年が以て龜鑑とすべき絶好の立志傳たり殊にその間に於ける佛教の盛衰消長及び教界人物に對する忌憚なき評論は明治佛教の側面史として教家の一讀を要求するに足るの實益と趣味とを具有する大文字にして眞にこれ教界未だ有らざる自叙傳なり

文學博士 松本文三郎先生著

佛典の研究

定價金九十錢
郵稅金八錢

松本博士は佛典の本文批評に於て實に日本學界のオーソリチー也多年その藏蓄を傾けて研究せられたる佛典已に幾十人加ふるに纔近幾煌その他の藏書に於て發掘せられたる佛典の研究は正に先哲未到の新說なりとす佛典の眞僞を如何に辨別し經論の精神を如何に會得すべきかに心を勞する人まづ此書を一讀せざるべからず

久津見蕨村先生著

ニイチエ

定價金九十錢
郵稅金八錢

ニイチエの研究ニイチエの理會ニイチエの組述に於て著者の如きは邦人中未だこれあらざる所今其爛熟の想と奇峭の文とを以てニイチエの性格ニイチエの事業ニイチエの思想ニイチエの人生觀世界觀ニイチエの哲學ニイチエの理想を描出し人をして親しくニイチエに接するの感あらしむ

文學博士 松本文三郎先生著
增補

宗教と哲學

定價金七十錢
郵稅金八錢

本書全編十有四章まづ筆を「釋尊は何を說きしか」に起し「宗教と道德」「研究と信仰」等次第を逐うて遂に健全なる宗教の基礎は哲學的論據に在ることを說明し延いて老莊程子の支那哲學に論及す惟ふに病弱なる現代の思想界は此書によりて元氣の回復を求め得む乎

東洋大學教授土屋鳳洲先生編
評解

唐宋八家文鈔

定價金四十五錢
郵稅金八錢

夫の唐宋八大家文が文章の模範と仰がるゝもの久し矣惜しいかな卷帙浩瀚初學の徒却つて岐路に亡羊の嘆なき能はず今我が土屋先生これを遺憾となし八大家の名文中更にその精髓五十篇を選びこれに細評を加へて以て文章の結構作法を知らしめこれに評解を施して以て故事熟語の意義を明にす學校教科の用書として甚だ適當なるのみならず地方青年獨學の良師として實に得易からざる珍籍たり

帝國大學講師
學習院教授
鈴木大拙先生著

禪の第一義

定價金一圓
郵稅金八錢

禪は東洋に於ける精神界の特產なりしかも從來誤つて山林の徒のみによりて拈弄せられ活きたる人生と殆ど沒交渉なるかの觀ありしは蓋し未だその第一義を闡明しその着手の處を說述することの徹底せざりしに基するものならずむばあらず著者參禪辨道三十年その實驗の歷程を精叙しその所得の公案を解說し一は以て初學者の指針となし一は以て人生の苦悶を除去せむとす不立文字教外別傳の禪も本書出てゝその近代的色彩の顯鮮なるものあるを看取し得む

內田魯庵先生著

沈默の饒舌

定價金八十錢
郵稅金八錢

雜學の一默その犀智の如しといふ今や日本文壇の老練摩內田魯庵先生が沈默の懷中に一大獅子吼を試み蹈人を濟ひ文士を度し靈肉の調和を說き生活の難易を敎ふその言の懇切なるその論を穩健なる誠に人間處世の好南針たりこれを目して饒舌となしこれを評し咄哉と言はむは蓋し未だ方丈の妙諦に參する能はざるもの

スエデンボルグ著
鈴木大拙先生譯

新エルサレムと其敎說

定價金六十錢
郵稅金八錢

此書は思想界の奇傑スエデンボルグの新基督敎說にして救濟には信と行とを要すること愛即ち意志は人格の基礎なること自由あるが故に善惡あること普惡あるが故に神の榮光彩はるゝこと等の諸說を簡明適切に述べたる快著

バアナードレヨウ作　堺利彦先生譯

人と超人

定價金九十錢
郵稅金八錢

レヨウ熱全盛の今彼の最大作の譯書出づ彼れの生命哲學彼の剛性說破の皮肉彼の諷刺彼の滑稽彼の冷嘲彼の熱罵悉く此一篇の中に在り
譯書內容は本文の外、譯者の序、原著者の序、原著通俗版の序、レヨウの人物及著作、革命家必携及其座右銘、私が會數で見た人と超人（松居松葉）等あり

文學博士　井上圓了先生著

おばけの正體

定價金五十錢
郵稅金八錢

本書は妖怪研究の大家たる井上博士が明治維新以後今日に至るまで日本の各地に起つた妖怪事實の中で特に珍な者奇な者恐ろしい者怪い者憐れな者面白い者馬鹿々々しい者百三十件を調査して一々その原因を示し百鬼夜行の眞相を明にした快書であつて怖がるくせに化物話を聽きたがる小供のためにも「幽靈の正體見たり枯尾花」などゝ悟つたつもりの大人のためにも趣味と實益とを與へること多大である

東洋大學長　大內青巒先生著

靑巒禪話

定價金壹圓廿錢
郵稅金八錢

この人にしてこの著ありといへばそれだけでもう澤山なりそれ以上廣告文でコケを威す必要いづこにかあるしかも試みに一二言を加ふれば平易以て微妙の法門を說破し俗話以て別傳の眞諦を闡明す想を說くること六十有餘悉くこれ天地の祕奧を探り人心の機微に關る迷悟凡聖の如きたゞ讀者の頷ぶところに委するのみ

文學博士　高楠順次郎先生
文學士　木村泰賢先生　共著

印度哲學宗教史

定價金貳圓
郵稅金八錢

本書は著者が印度の哲學宗教の大成は日本學界の本務なりといふ確信の上に立ちて久しく東京帝國大學に於て講述せる稿本を增補整理したるものにして斯界唯一最高の權威なり敢むるところ吠陀、梵書、奧義書、及び諸學派の開展に涉り洵にこれ印度の根本思想を說述して餘さるなきもの苟も世界無比の寶庫と稱せらるゝ印度古代の文明について闡明するところあらむと欲するものは須くまづこの秘鑰を攫らざるべからざる也

新井石禪老師著

修道禪話

定價金一圓
郵稅金八錢

新井石禪老師は學に於て德に於て舌に於て筆に於て現代禪門第一流の人なり今や世俗の往往にして野狐禪に滿足し邪禪に墮在するもの尠からざるを見て慈心到底默止するに堪へず鼓に活禪談を試みて修道處世の南針を指示す釋尊一字不說の妙諦達磨西來の眞意こゝに於てか始めて了了明明

學習院教授
帝國大學講師　鈴木大拙先生譯

神智と神愛

定價金一圓半錢
郵稅金十二錢

本書は天界地獄の遍歷者として學者宗教家を驚倒せしめたる思想界の奇傑スエデンボルグ氏の人生觀を率直に披瀝したる者也愛は宇宙の本源にして智は愛より生ずる所以より說き起し造化の大功人生の目的を闡明す所論警拔斷案透徹筆明快

高島米峰先生著

店頭禪

定價金八十錢
郵稅金八錢

禪坊主の禪にもあらず野狐禪の禪にもあらず語默動靜皆是禪の禪也學林の禪にもあらず僧堂の禪にもあらず鷄鶴堂の帳場格子趣に獨り自ら實參實究したるところの禪也
傳統の禪にあらずして店頭の禪也空想の禪にあらずして創造の禪也即是れ生活の實驗也信仰の告白也

建仁寺派管長　竹田默雷老師著

禪の面目

定價金一圓
郵稅金八錢

話も亦雷の如く默も亦雷の如し本來の面目眞に此の如きのみ今絕版せる『默雷禪話』二卷數百則中より奇峭の論と懇到の說とを選びて百五十則を獲たりこれを世に行ふ所以のもの主とし生死街頭に迷惑するものをして自性徹見の境地に到達せしめむと欲してなり

『修養世界』主筆　菅原洞禪師著

禪林奇行

定價金壹圓
郵稅金八錢

和漢古今の居士禪僧が奇行佳話を蒐むるもの實に百數十項一として古聖證悟の過程前賢參究の所得たらざるなし綿密なる佛祖の行履發揚たる禪林の消息正にこゝに盡きたりと稱すべき也

釋宗演老師著

拈華微笑

定價金壹圓
郵稅金八錢

釋尊拈華し迦葉微笑す個中の消息何人か會し又何人か會せざる會する者を聖と稱へむも當らず會せざる者を凡と呼ばむも亦當らず凡聖一如の境地は畢竟此書を必讀し體讀したる者にして始めて到達し得べしとなす耳

京都市平安中學講師　トーマス、カービー先生著

英文佛教讀本

定價金五十錢
郵稅金六錢

著者は敬虔なる佛教信者として熱心なる佛教研究者として夙に世に推重せらるゝ英人にして本書收むる所釋尊の傳記印度諸王族の佛教尊崇に關係せに盡しゝ狀況及歐米に於ける佛教學者の筆に成れる論文英語に飜譯せられたる佛典の拔萃並に將來佛教の歐米に傳播すべき趨勢に關する著者の豫見等凡そ二十餘章蒐し佛教學校の英語教科書として唯一無二の良書たり

帝國大學講師　ドクトル　荻原雲來先生著
梵漢對譯

佛教辭典

定價金五圓
郵稅金十二錢

本書收むる所顯密二教の法數名目を始め經律論三藏中の學語は勿論佛菩薩天龍八部天象地儀山川草木飲食器皿數方時より動詞副詞に至るまで語數萬だ豎富にして單に佛教辭典としてのみならず又梵漢辭典としても未曾有の寶藏なりこれを以て佛教を知らむと欲するもの梵語を學ばむと欲するものは言ふまでもなく一般語學者印度文藝の研究者に取りても亦唯一無二の寶典たり

曹洞大學長　秋野孝道老師著

禪の骨髓

定價金壹圓
郵稅金八錢

以心傳心の禪直指人心の禪そこに何の肉肉ぞ何の骨髓ぞ今吾が秋野老師特に『禪の骨髓』と題して一卷を成す或は言はむ是れ好肉上の瘡と易ぞ知らむ是れ指月の指なることを世の指に執着するものは則ち去れ迷雲一たび拂へば眞如の明月耿々として天地こゝに朗然これ此書を學人に薦むる所以

原僧遲老師著

禪の捷徑

定價金壹圓
郵稅金八錢

教外別傳と說き不立文字と說き而して實參實究を强ふ禪も亦難いかな易ぞ知らむ語默動靜皆是禪喫茶喫飯も亦即ち是れ禪ならざることなきを果して然らば人誰れか禪に眠り禪に坐き禪に死せざるものぞ僧遲老師八十年の禪生涯その行業直ちにこれ禪の眞諦今奚心默止し難くて敢てこの捷徑を示す寧ろ却て大道坦々として長安に通ずるものあらむ

荒井泯光先生著

道元禪師

定價金壹圓
郵稅金八錢

曹洞宗の開祖道元禪師遠く宋土に渡りて慕道尊師し深く佛陀所說の核心を探り詳に祖師面授の單的を領す而して歸來喝破すらく「空手還鄉」と空手還鄉の那一曲知らず何等の妙調ぞ佛法の要旨玆に存し禪の眞髓玆に盡く著者今禪師が一代の行狀事蹟を描寫するに流麗にして巧妙なる文辭を以てし禪師の風丰面目をして卷中に躍動せしむ通俗にして文學的なる禪師傳は蓋し此書を以て嚆矢とせむ讀者これに依つて曹洞禪風の淵源を究むべく又これに依つて悟徹の洪範を得べし

原田祖岳先生著

參禪の階梯

定價金壹圓
郵稅金八錢

原田老師洞濟二家の宗風を把持し銀山鐵壁容易に攀づべからざる庭の禪に姑く階漸を設けて學人のために參禪の一路を示す夫の胡亂に大悟を語りて鬼窟裡の活計を作すが如き野狐精者流は乃ち問はず荀も剃髮に大悟林を透過して清風明月の趣を會得せむと欲する者は須らく秩序整然たる階梯を辿れ

大石正巳君序　飯田橋隨君跋
南天棒中原鄧州老師著

南天棒禪話

定價金一圓廿錢
郵稅金八錢

機鋒辛辣得て近づくべからざるが如くにしてしかも慈敎懇到兒女童孩も亦虎せずむば止まざるもの實に是れ吾が南天棒鄧州老師の面目なり今著はすところの禪話一卷卷中の所談悉くこれ釋尊拈華し迦葉微笑する底のもの縱横に說き無礙に辯じて眞に四方八面來旋風打の概あり

東洋大學敎授　境野黃洋先生著

活ける宗敎

定價金壹圓廿錢
郵稅金八錢

著者が限りなき渴仰と畏りなき崇敬とを拂つて居る日本佛敎の代表的偉人中特に聖德太子傳敎大師弘法大師法然上人日蓮上人道元禪師親鸞上人蓮如上人白隱禪師の人格と敎義と信仰とを精叙したもので正にこれ一部の「列傳體日本佛敎史」であるしかし世間に有りふれた冷かな抽象的な人間の血の氣の通つて居ない學究的なものではなくて此等の偉人が親しく體驗したる內的生活の上に活躍して居る眞の宗敎を語つたものであるこれによつて佛敎の大意もわかるし健全なる佛敎の信仰も理會せられる

醫學博士　岡島狂花先生新著

現代の西洋繪畫

定價金一圓六十錢
郵稅金十二錢

岡島博士多年研鑽の所得を紐繼して玆に此の書を成すその內容の概略を摘記せむか。一、代表的名畫三十二葉を挿入したる事二、綜來ありふれたる氣分的斷片的文集にあらずして科學的の著作なる事三、現代西洋十六ケ國の繪畫を取扱ひたる事四、筆を太古の繪畫史に起し古き傾向より近代の推移期に入り進みて新しき傾向即ち印象派、新印象派、後期印象派、未來派、色彩象徵派、立體派、立體派より昨年分れたるオルフイズムに至るまで悉く精叙して盡さゝるなき事五、一千餘語の原語索引を附したる事六、現代の版畫を七節に分ち廣告畫にまで論及したる事

加藤咄堂先生　高島米峯先生推讚　笛岡清泉先生著

美人禪

定價金一圓
郵稅金八錢

加藤咄堂先生曰はく「戀に泣く美人が嬌態を寫して佛々祖々の玄機を語る文に艷冶の趣あり」と想に超脫の旨を存す孰れか禪孰れか戀『美人禪』の一書讀み了りて轉ゝ恍惚たり」と高島米峯先生曰はく「達磨傾城之圖に參透するの具眼を以てせば始めてこの書一卷別傳の妙敎理不立の好文字たることを看取し色即空なるところに美人の禪を味ふべく空即色なるところに禪の美人と相見すべし」と

帝國大學敎授　文學博士　高楠順次郎先生閲
帝國大學講師文學士　木村泰賢新著

印度六派哲學

定價金二圓卅錢
郵稅金十二錢

六派哲學（數論、瑜伽論、勝論、正理論、聲論、吠檀多）は印度哲學の代表的思潮にして諸種の論義と學說と一として備はらずと言ふことなしなるに我國未だ之に關して權威ある著述の發表せられたるを聞かざるは眞に學界の一大恥辱なりとす木村先生夙に之を慨し研究多年漸くその完成を告ぐるや更に東京帝國大學に於て之を講ずること二學年其間又多少の補訂を加へて遂に汎く之を世に問ふに至りしなり時恰もタゴールによつて今更の如く印度思想の雄大深遠なるに驚嘆する者多き貧弱なる我國の思想界に向ひ本書の如き斯學最高の權威たるべき名著を推薦することを得たるは啻に弊社の誇のみならざる也

スエデンボルグ著
帝國大學講師
學習院敎授　鈴木大拙先生譯

神慮論

定價金二圓卅錢
郵稅金十二錢

『神慮論』はスエデンボルグが玄奧神秘なる宗敎を知るべき一大著述なり『天界と地獄』は現世と離れて離れざる心界を描出し『神智と神愛』は絕對無限性の神德を說破し而して『神慮論』は實に此の神德が萬物の上に現はるゝ所以を詳述したるものにして天界地獄の巡歷者神秘界の大王神學界の革命家たるス氏の所說を知らむと欲する者は本書を讀め

建仁寺管長　竹田默雷老師著

禪機

定價金一圓
郵稅金八錢

不言言の妙諦言ひ得て盡さゞるなく不說說の眞源說き得て至らざるなしその舌鋒銳利互に人間の皮肉を刺し肺腑を刳る正にこれ眞禪機の暴露

高橋竹迷先生新著
（口繪、三禪師自讚畫像）

隱元・木庵・即非

定價金一圓
郵稅金八錢

著者今流麗なる筆を呵して夙に黃檗三筆の稱ある隱木即三禪師の哀怨なる生涯頼脫なる言行書畫風流の三昧を描寫し以て明朝滅亡史を背景として江戸時代佛敎の活舞臺に躍り出でたる黃檗禪の眞面目を傳ふ蓋し禪界最初の著作たり

文學博士　井上圓了先生著

妖怪叢書

特價八拾錢
定價金壹圓
郵稅金八錢

井上先生の妖怪研究に於ける殆ど半生の事業たりこれを以てその假怪僞怪の正體を暴露し來つて遂に眞怪の不可思議を闡明するところ誠に天下獨歩にして何人の追隨をも許さざるなり或は『哲學うらなひ』といひ或は『天狗論』といひ或は『迷信解』といふ悉くこれ『改良新案の夢』といひ或は『天狗論』先生の蘊蓄を傾けたるものならざるなし今この四論を合せて此の叢書完成す世の奇を好む人怪を厭ふ人共に本書に就いてその眞相を看取せば庶幾くば直に無不思議の妙境に到達し得む

臨濟大學教授
文學士　木宮泰彦先生新著

榮西禪師

定價金一圓
郵稅金八錢

鎌倉足利時代の文化（文學、建築、繪畫、書道、香道、茶道）は一として當時傳來せる禪宗の影響を蒙らざるはなく殊に我國禪宗の始祖たる榮西禪師の偉業海嶽の如き者あり著者今多年の研究によりてその行狀事業著述及び法嗣の事蹟を詳述し以て鎌倉足利時代の文化を大正の今日に展開し來る單に一禪僧の傳記のみとしてこれを輕々に看過すること勿れ

帝國大學講師
學習院教授　鈴木大拙先生新著

禪の研究

定價金一圓
郵稅金八錢

著者嘗て「禪の第一義」を著はして參禪辨道の上に一路の新光明を與へたりしが今やその研究更に百尺竿頭に一歩を進め玆にこの新著を發表して從來の空疎なる談片禪語錄禪の外に別に充實せる系統禪科學禪の存することを明にして修禪の目的人生の歸趣始めてこゝに確立する所以を力說す洵にこれ禪界空前の新研究なり

豐山大學長　權田雷斧僧正述

兩部曼荼羅通解

（挿圖十八葉）
定價金一圓五十錢
郵稅金八錢

兩部曼荼羅は密教の根本思想とその實踐の理想とを圖畫に託して顯示したるものにして密教の骨髓眞言の極致佛教美術の精華これを外にしてむべからざるなり然るに斯教由來口訣を重じ面授を尚び堅く神秘の關鑰を鎖して容易に門外の窺蒙を許さず學者頗るこれを遺憾とす於此乎昨秋權田僧正を請じて曼荼羅の講傳を受く弊社今切にその有志相謀り大阿闍梨の修正補訂を請ひ玆にこの千古の秘藏を開放するの光榮を得たり講錄の慶事と言はずして何ぞや

文學博士　井上圓了先生　三大名著

活佛教

好評三版
定價壹圓十錢
郵稅八錢

日本現存の佛教は悉く生きたる人間の救濟には全然無力なる死佛教にして人類の幸福國運の發展の如きもとよりこれに望むべくもあらず井上先生護法の至情自ら禁じ難くこゝに一大革新の名策を立て從來の死佛教を蘇生せしめて活佛教となし大乘の眞面目なる世間的活動の大精神を發揮せしめむとして遂にこの著を成す惟ふに夫の明治年間に於て宗教界と思想界とを震駭せしめたりし先生の名著『佛教活論』は既刊の『序論』『破邪活論』『顯正活論』と及び此の書とを以て全部完成を告ぐ彼を讀みて啓發せられたりし人も此を讀むべく未だ彼を讀まざる人も亦これ讀まざるべからず殊に大に活躍せむと欲する僧侶大に寺院を興隆せしめむと欲するも僧侶はこの書について學ばざるべからず

南半球五萬哩

好評四版
定價九十錢
郵稅八錢

本書は井上博士が南半球を一周し赤道を四過し濠洲南阿米の各州は勿論北は北極海より南はマゼラン海峽まで到る處山容水態國情民俗の苟も眼窓に映じ耳朶に觸れたる珍奇怪異の現象はこれを詳記して漏さず殊に各地の景色風俗等の寫眞版數十個挿入したれば讀者は坐ながらにしてしかも五萬哩大旅行の途に上りつゝあるの思をなさむ冀くはこれを以て夫の當世流行の假作的冒險譚空想的旅行記と同一視することなかれ

おばけの正體

好評三版
定價五十錢
郵稅八錢

本書は妖怪研究の大家たる井上博士が明治維新以後今日に至るまで日本の各地に起つた妖怪事實の中で特に珍なる者奇なる者恐ろしい者凄い者悲しい者憐れな者面白い者馬鹿々々しい者百三十件を調査して一々その原因を示し百鬼夜行の眞相を明にした快書であつて怖がるくせに化物話を聽きたがる子供のためにも「幽靈の正體見たり枯尾花」などゝ悟つたつもりの大人のためにも趣味と實益とを與へること多大である

東京市小石川區原町六八　振替東京五六六一番
東京市小石川區原町三五　振替東京一三一番
丙午出版社
雞聲堂

21194

加藤咄堂先生新著▲教育家宗教家無二の寶典

通俗講話の理論と方法

文部省が一たび通俗教育調査會を設立し通俗講話の必要を鼓吹するや天下の教育者翕然としてこれに靡き市府縣の教育會より郡村の教育會に至るまで擧げて通俗講話のために努力せざるものなしたゞその最も憾みとするところは講話者たの人を得ることの難きにあるが如し惟ふにこれ現時の教育界宗教界學術界を通じて演說說教講義を爲す人の乏しきがためにあらずしてたゞ通俗講話の理論を知悉し方法に慣熟したる人の少きがためならずんばあらず

本書は通俗講話に多年の研究と豐富なる經驗とを有せる加藤先生が帝國教育會東京府教育會及その他各府縣の教育講習會の懇請によりて親しく通俗講話の理論と方法とを說述せられたるものを基礎となし更にこれに幾多の講話材料を增補してこの一卷を成す洵に斯界空前の新著たり苟も講壇に立たゞと欲する人一たびこの書を繙かゞか忽にして一個理想的の通俗講話者たるを得む

弊社はかゝる實益と趣味とを併せ有する名著を出版してこれを世の演壇上の人士及び將に演壇に立たゞとする諸君の前に提供することを得たるを甚しく光榮とするものなり

總クロース箱入　定價　九十錢　郵稅　八錢

東京小石川區原町　丙午出版社　東京小石川區原町　雞聲堂

終